

## 好スタートを切って1コーナーに飛び込むも 直後の接触で無念のリタイアを喫す……

全日本選手権スーパーフォーミュラ第3戦富士スピードウェイ(4.563km)

『とちぎル・ボーセモータースポーツ』が挑む、国内最高峰カテゴリー、全日本選手権スーパーフォーミュラシリーズ第3戦が、富士スピードウェイ(静岡県)を舞台に、7月13～14日に開催された。国内最長のストレートを持つだけに、ハイスピードコースとの印象が強い一方で、セクター3と呼ばれる最終区間は極めてテクニカル。そのため、ドライビングにもセッティングにも、微妙なバランス感覚が求められる。ストレートでのスリップストリームや1コーナーでのブレーキング勝負など、オーバーテイクチャンスは他のサーキット以上に多いこともあり、激しいバトルに期待がかかった。

### 予選

7月13日(土)  
天候/曇り  
コース状況/ドライ

梅雨明けしたばかりとあって、レースウィークは絶えず猛烈な暑さとの戦いも覚悟の上で、サーキット入りすることとなった。また、今回はあらたな富士用の空力セッティングを施しマシンを持ち込んでのスタートとなった。土曜日の8時50分からのフリー走行は上空に雲がかかって、何より太陽がまだ斜めから差していたため、懸念していたよりも温度は低めで、気温27度、路面温度34度からのスタート。まずは2周をチェックに充て、3周目から本格的に走行を開始。1分28秒032を記した5周目に1回目のピットストップ。続いて2周の連続周回を2回こなしていく。その段階でのベストタイムは27秒865。続いての走行は3周連続で、ここでは27秒213を記して、着実にタイムを詰めていた。そして終了間際の2周では温度も上昇していたにもかかわらず、26秒833、26秒388と、またもやタイムアップに成功する。

そして13時50分からは予選のQ1。ここにニュータイヤを投入し、計測開始とともにマシンをコースに送り出す。アウトラップともう1周をチェックとウォームアップに充てて、2周目からアタックを開始。まずは27秒051、次の周に27秒052を記録すると5周目に26秒872と26秒台に突入。折り返しとなる9分目にピットへと戻り、微調整を行なった後、2セット目のニュータイヤを装着して再びコースに送り出す。アタックを開始してすぐ26秒774をマークし前回のタイムを更新した後、1周をクールダウンとポジションに充てて、ラスト2周のアタックに取りかかる。26秒445と前回タイムを更新した後、最後のアタックで26秒268にまで短縮。その結果、決勝レースには9列目、17番手グリッドから臨むこととなった。



TOYOTA

Racing Development  
TRD

DENSO

TPR

NPR

AISIN AW

AISIN

富士電機

ETICS

豊田自動織機

NSK

Itcs  
ITCS MOTOR OIL LTD.

TAIHO

カーエスライ

MARUYASU

TAMACHI

ばねの素織

AIDO METAL

橋本トヨタ

トヨタレンタリース栃木

Next Stage

BEHR

TRD

中興スプリング

icode

Castrol

EBBR

FFC

ODYSSEY

TAKATA

ThreeBond

UPSTART

BILION

TOYOTA

wax graphics

道の駅もてぎ

## 決勝

7月14日(日)  
天候/曇り  
コース状況/ドライ

日曜日の9時5分からのフリー走行もまた、コンディションはドライ。しかも程よく雲が上空に浮かぶ中でのスタートとなった。まずはバランス確認の為にコースイン。マシンのデータと仕上がりを確認できたばかりか、4周目に記録したタイム26秒808はその時点での全体のベストタイム。暫定とはいえ、モニター上にゼッケン62が一番で記される。そして5周の走行の後、ピットにマシンを戻してロングステイントへの調整を行い再びコースイン。ここでは10周でのロングランを行い、決勝レースに向けてのセットアップも順調に進んだ。

スタートを間近に控えた段階での気温は31度、路面温度は40度に。気温のほど路面温度が高くなっていなかったのは、ひきつづきうすうすとかかった雲が、強い日差しを遮ってくれたおかげ。もちろん熱対策は十分に施してあるため、少々高まろうとも問題なく対応できていた。ところが、それを確認する間もなく、レースはあっさりと幕を閉じる。

好スタートを切って1コーナーまでに2台をパスし、更にポジションを上げようと積極的に1コーナーへ飛び込むが、コーナー手前では混乱の中、前車の後部に追突してしまう。不運なことに後続車両もそれを避けきれず、嗟嘆のマシンと絡みあうかたちになってしまいストップ。リタイヤを余儀なくされてしまう。

決勝レースまでのセッションでは着実にタイムを詰め続けていたこともあり、リタイヤがなんとも惜まれる。次回のレースはチームのホームコース、ツインリンクもてぎが舞台とあって、本格的な巻き返しに期待がかかることとなった。



TOYOTA

Racing Development  
TRD

DENSO

TPR

PNR

AJ AISIN AW

AISIN

F 富士電機

ETICS

豊田自動織機

NSK

It's  
RACING SYSTEMS CO., LTD.

TAIHO

カーエスアイ

MARUYASU

TAMACHI

ばねの素

AIDO METAL

栃木トヨタ

トヨタレーシング栃木

Next Stage

BEHR

TRD

中康スプリング

icode

Castrol

EBBR

FFC  
FRANCE

ODYSSEY

TAKATA

ThreeBond

UPSTART

BILLION

TOYOTA

wax graphics

道の駅もてぎ

チーム監督  
**坪松唯夫**  
Tadao Tsubomatsu  
COMMENT

予選までに空力的に良いバランスを見つけるのに時間が掛かってしまった。エンジニアがトライした新しい空力は、走行データ上からも大きな進歩がみられ、日曜朝のフリー走行を使って最終確認をしたところレースに向けて良い感触が得られた。それだけに1コーナーでのアクシデントは残念でならない。チームは8月の茂木戦に向けて努力を続ける。

Driver  
**嵯峨宏紀**  
Koki Saga  
COMMENT

スタートはうまくって何台か抜くことができ、いい感触でした。1コーナーでさらにポジションを上げようと、積極的に飛び込んでいったのが思いのほかオーバースピードで追突するかたちとなってしまいました。後続車も避けきれず絡みあうかたちとなってしまったのも不運でした。次回はチームの地元でのレースなので、気を取り直して頑張ります。

全日本選手権スーパーフォーミュラ 第3戦 富士スピードウェイ レース結果

順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
1	2	A.ロツテラー	PETRONAS TEAM TOM'S	6
2	38	平手晃平	P.MU/CERUMO・INGING	4
3	16	山本尚貴	Team 無限	7
4	8	R.デュバル	KIGNUS SUNOCO Team LeMans	1
5	40	伊沢拓也	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	10
6	19	J・P・オリベira	Lenovo TEAM IMPUL	3
リタイヤ	62	嵯峨宏紀	TOCHIGI Le Beausset Motorsports	17

TOYOTA

Racing Development  
TRD

DENSO

TPR

NPR

AJ AISIN AW

AISIN

富士電機

GTICS

豊田自動織機

NSK

Itcs  
ITCS SYSTEMS CO., LTD.

TAIHO

カースライ

MARUYASU

TAMACHI

ぼの索棚

AIDO METAL

橋本トヨタ

トヨタレーシングチーム

Next Stage

BEHR

TRD

中康スプリング

icode

Castrol

EBBR

PFC

ODYSSEY

TAKATA

ThreeBond

UPSTART

BILLION

TOYOTA

wax graphics

道の駅もてぎ